

2014.4 — 2015.3
ARCHIVE of hacchi

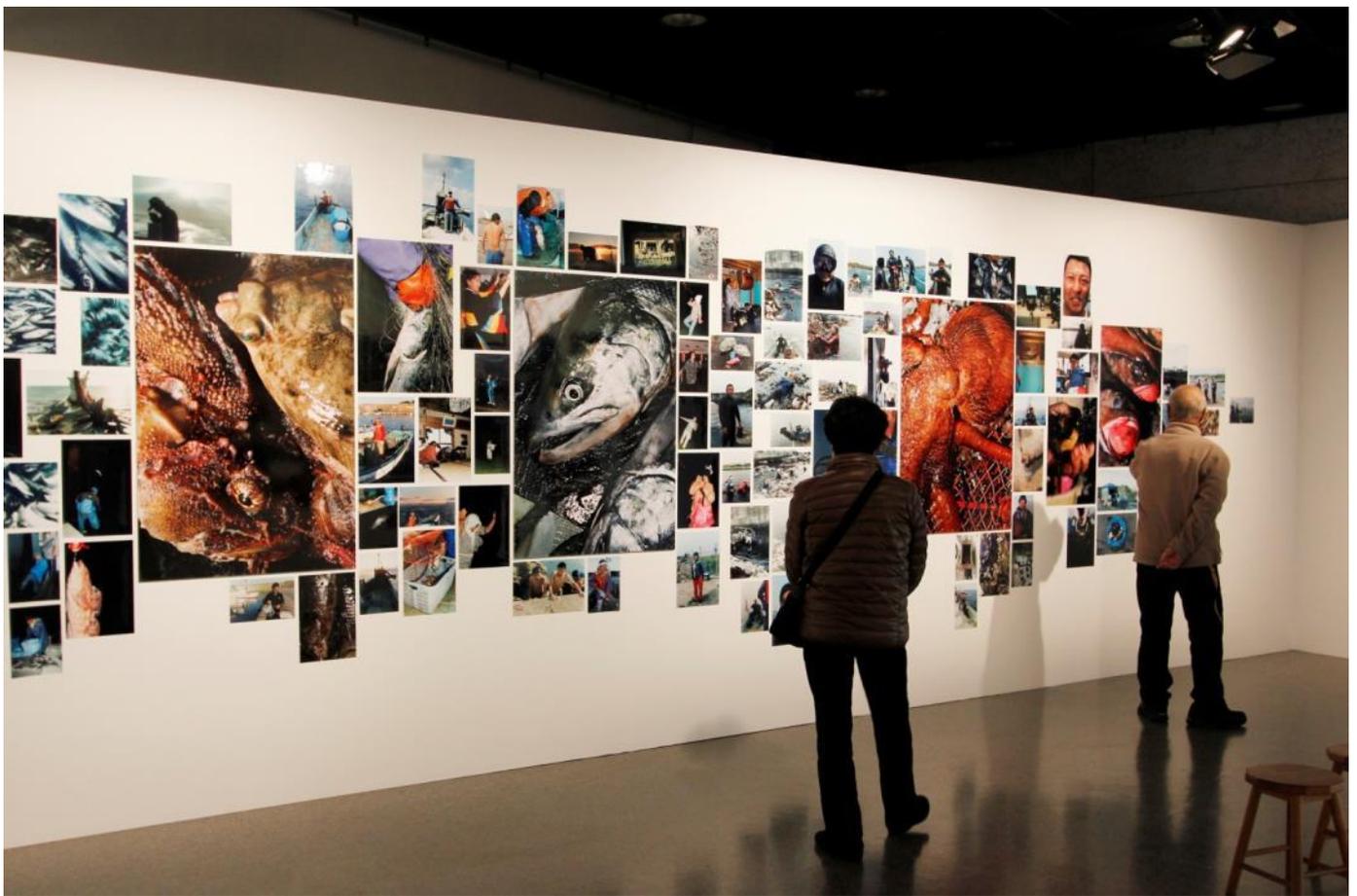


hacchi

2014.4 — 2015.3
八戸ポータルミュージアムはっちの歩み

目次

○館長あいさつ	1
○はっちについて	2
はっちのコンセプト・ミッション	4
はっちの年表	5
はっちのまちなか効果	6
○はっちの4周年	7
○はっちの自主事業	8
【中心市街地賑わい創出事業】	
イベント連携事業	9
市民活動支援事業	10
ライブラリ事業	12
はっちのゴールデンウィーク	13
はっちのたなばた	14
はっちのクリスマス	15
はっちのお正月	16
はちのへ雛めぐり	17
はっち新規ファン開拓事業	18
【文化芸術活動支援事業】	
まちぐみ事業	19
はっち魚ラボ	20
アーティスト・イン・レジデンス事業	21
和日カフェ～毎月第3日曜日は日本文化に親しむ日～	22
八戸ライトショー・フェスティバル	24
酔っ払いに愛を～横丁オンリーユーシアター～	26
パフォーミングアーツ振興事業	27
【ものづくり支援事業】	
ものづくりスタジオ	28
ものづくり支援事業	29
はっち市2014～はっちがちっちゃな街になる～	30
【観光振興事業】	
お祭り in はっち2014(八戸三社大祭)	32
えんぶり in はっち	33
市民学芸員・はっち特派員	34
○情報発信事業	35
○貸館事業	36
○こどもはっち	38
○ボランティアガイド	40
○2014年度 はっちの自主事業一覧	41



2014年度を振り返って

八戸ポータルミュージアム 館長

2014年度のはっちの事業をまとめたアーカイブをお届けします。

八戸市では、伝統文化から新しい文化まで、多種多様な分野で活発に繰り広げられる市民の特色ある文化活動を「多文化」と定義し、その「多文化」を推進することで地域活力の創出を図っています。また、まちの各分野の諸課題を横断的・総合的に解決する手法として、市民力の源となる「アート」に着目し、さまざまなアートプロジェクトを展開しながら、新たなまちづくりを推進しています。こうした文化芸術の活用と地域の特色を生かした取り組みが評価され、青森県内で初となる文化庁長官表彰(文化芸術創造都市部門)を2014年度に受賞しました。なかでも代表的な取り組みの「フィールドミュージアム八戸構想」「八戸ポータルミュージアム『はっち』」「南郷アートプロジェクト」「工場アート」「伝統祭事『八戸三社大祭』『八戸えんぶり』」が特に高い評価を受けました。

この受賞を記念して2015年2月に開催したシンポジウムでは、文化庁文化芸術創造都市振興室長の佐々木雅幸同志社大学特別客員教授、志賀野桂一東北文化学園大学教授、まちづくり会社ドラマチックの今村ひろゆき代表社員といった方々をお迎えし、文化芸術を活用したまちづくりの可能性や創造都市八戸の発展に向けて語り合いました。

八戸ポータルミュージアム「はっち」は2011年2月に開館して以来、まちを元気にしたいとの思いを持って市民の皆様とともに歩んできました。お蔭様ではっちの中では日常的に、こどもはっちで遊ぶ親子、各りビングスペースで談笑にふける人々、勉強する学生たち、お稽古に精を出したりおさらい会でステージに上がって下さる方々、ご自分の作品を展示発表される方々といった、市民のさまざまな活動を見ることができます。四季の移ろいと、時々話題に応じつつ、はっちは呼吸するかのようによくの人を迎え入れ、また送り出しています。

はっちを訪れる皆様には、はっちはこれからも「はっちらしい」と感じていただけるように心を砕いて参ります。

はっち 78 19 hacchi

はっちは「ソウゾウ開化」のために生まれました。

「ソウゾウ」と聞いて何を思い浮かべますか。
アートであったりデザインであったりするかもしれません。
「ソウゾウ」とは、まちやひとを想う視点を変えてみることであり、
その「本質」を育てる取り組みであると考えます。
「本質」を育てると何になるでしょう。

「本質」が大きく育つと「ブランド」と呼ばれてきます。
まちのシンボルとなる「ブランド」は、「ひと」の絆を育んでいきます。
では「本質」はどこにあるのでしょうか。

一見関係もなさそうな身近なところに、実はそっと存在しています。
あまりにも距離が近すぎるために、見落としているだけではないでしょうか。
その見落としている「本質」を探しだすこと、
そのために、ちょっと今までとは違う視点で見てみることに、
そして、その具体的な活動が「ソウゾウ」であり、
そういう場や機会をつくること
はっちの役割＝『ソウゾウ開化』だと考えています。

名称とシンボルマークがあらわすもの

公募から生まれた愛称「はっち」

「はっち」という愛称は、公募から生まれました。八戸の「はち」から派生した「はっち」であり、市民にとって最も身近な言葉の一つでもあります。また、英語で卵の孵化や出入口などを意味する「hatch」にもちなんで名づけられました。さらに、着地型観光ならぬ、ここから市内各地に送り出す発地（はっち）型観光の意味もあります。

正式名称が示す施設の機能

正式名称「八戸ポータルミュージアム」は、来館者が観光などのために、実際の八戸に足を踏み出す玄関（入口＝ポータル）としての機能を担う施設であるとともに、市民の創造活動の拠点として、その本質に触れることができる博物館（＝ミュージアム）のような機能を担う施設であるという意味が込められています。

地域の特長を表現したシンボルマーク

シンボルマークは、デザイナーの古平正義さんにより、数字の8をモチーフとしてデザインされたものです。八戸は南部地域の八戸から九戸までの数字を冠するまちに囲まれ、また「はっち」も中心市街地の市日いちびを表す三日町という町の中にあるなど、数字の地名が多い八戸の地域的な特長を表しています。



フィールドミュージアムとポータルミュージアム

八戸を「屋根のない大きな博物館」と見立てたフィールドミュージアム八戸は、観光資源を、まち・渚・田園・祭・歴史文化・食彩・産業・物産の8つのテーマでわかりやすく紹介しています。「はっち」ではこれらの魅力をコンパクトに集め、実際の八戸へと誘う玄関としての役目を担います。さあ、「はっち」からそれぞれのミュージアムへでかけよう！

8へのこだわり

「8」を中心としたシンボルマークは、八戸が南部地域の八戸から九戸に囲まれている特徴を表しています。また、末広がり縁起のいい「8」にこだわり、はっちでは、八角形の中庭、8個の展示屋台などのハード面から、8つのミッションや事業における88人の募集などソフト面まで「8」にちなんで取り組んでいます。そして、1周年記念セレモニーのその日、なんと888,888人目の入館者を迎えました。

事業のコンセプト

「はっち」は地域の資源を大事に想いながら、新しい魅力を生み出していくところです。地域の資源を大事にすること、市民と協働すること、まちなかに回遊することを意識し、3つの事業を行っています。

会場所 づくり

誰でも気軽に立ち寄れる場、人が集いコミュニケーションが生まれる場、地域の文化に触れられる場をつくります。

- ・こどもはっち
- ・はっちひろば
- ・リビング
- ・カフェ、ショップ ほか

貸館 事業

創作活動をサポートする施設の貸し出しをします。

- ・シアター
- ・ギャラリー
- ・各種スタジオ
- ・レジデンス ほか

自主 事業

地域の資源を活かした事業のプロデュースにより新しい価値を創造するため、4つの柱に基づいた事業を展開します。

- ・中心市街地賑わい創出事業
- ・文化芸術振興事業
- ・ものづくり振興事業
- ・観光振興事業・FM（フィールドミュージアム）推進事業

展示のコンセプト

八戸の見どころや魅力を、市民作家や市民学芸員の作品を通してわかりやすく紹介し、ここからまちなかや観光地に誘う玄関口としての展示がコンセプトです。また、「はっち」館内は展覧会や発表会、練習などで活動している元気な市民の姿や、読書や憩いの場としてゆったりとした時間を過ごす姿、八戸弁でおしゃべりをしている素のままの市民の姿も含め、まるごと八戸が感じられる施設です。市民にとっては、八戸の魅力を再認識し誇りに思う場、観光客にとっては八戸に来たら必ず寄ってみたい場となります。

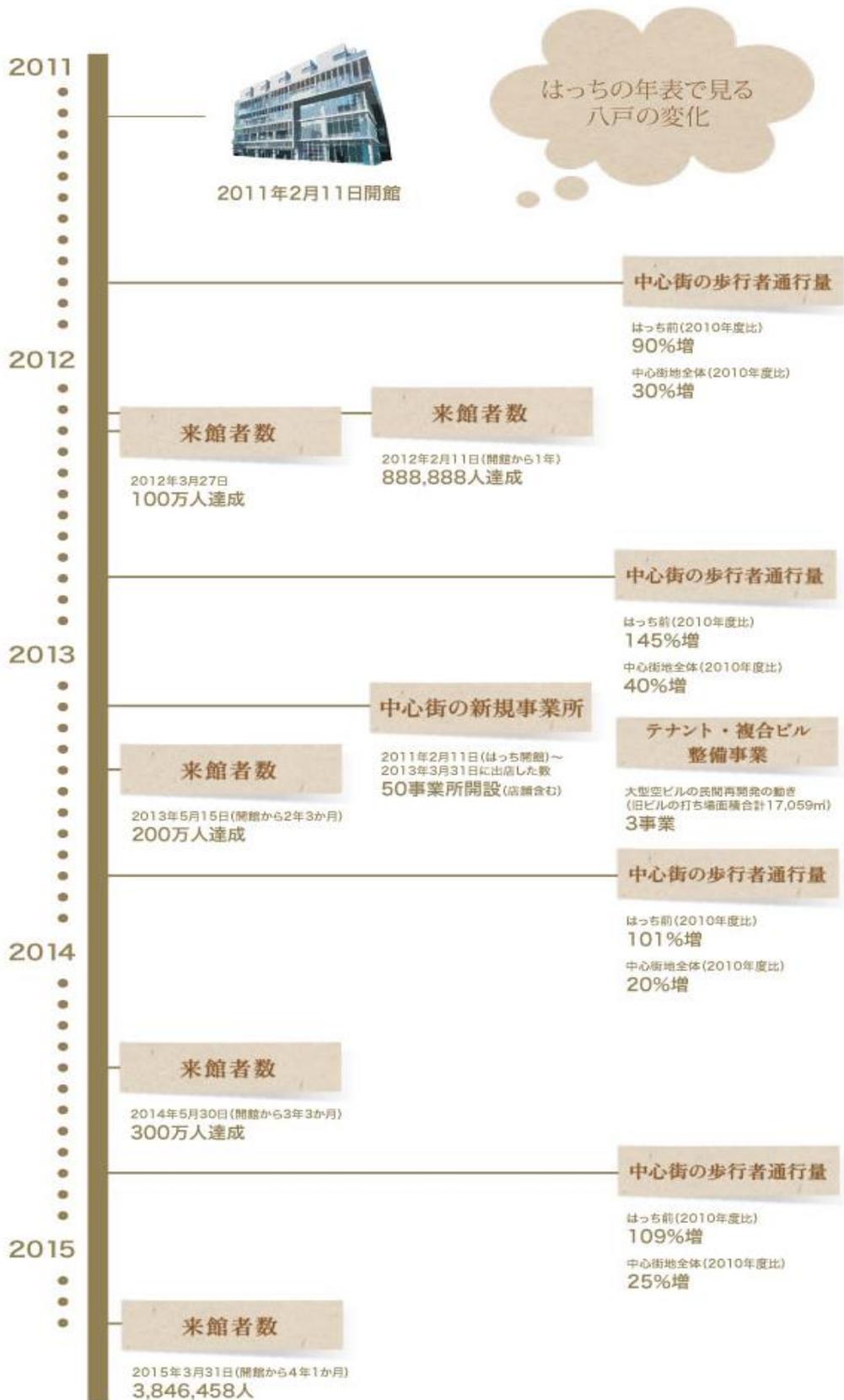
建築のコンセプト

「はっち」は八角形の中庭を中心に、八戸の中心街の特徴である路地や横丁のような回廊、広場のような空間があります。八戸の魅力を発見しながら、各所で観覧や活動、ショッピングや飲食、休憩を楽しめる立体的なまちとして造られています。

はっちのミッション

「はっち」はまちを元気に、ひとを元気にします。市民とつくる事業、産業、観光振興のためのクリエイティブな事業、そして、そこに集まる人々のコミュニケーションがまちを動かす力を生み出していきます。

- 八戸のやる気をさらに引き出します。
- まちの連帯感をつくります。
- ほしいものがあるまちにします。
- 歩きたくなるまちにします。
- 八戸資源を再発見するきっかけをつくります。
- 八戸流の情報発信をします。
- 子どもからお年寄りまで共に育てあう場を作ります。
- 新しい価値と表現を生み出す場をつくります。



🔍 はっちの来館者数

2012年3月27日 100万人達成
2013年5月15日 200万人達成
2014年5月30日 300万人達成

2015年3月31日現在 3,846,458人

🏆 はっちの表彰

2011. 照明学会 照明普及賞受賞
2012. グッドデザイン賞(八戸レビュー)
2013. グッドデザイン賞
(市民が地域づくりに参画できる仕組み、プロジェクト)
2013. 第33回東北建築賞
2013. 「日本建築家協会優秀建築選」100選
2014. 文化庁長官表彰(文化芸術創造都市部門)

はっちのまちなか効果

このまちがもっと、このまちらしく輝くために・・・

開館からの4年間、「はっち」では、地域資源を大事に想いながら、まちの新しい魅力を創り出すことを念頭に置き、誰もが気軽に集いコミュニケーションが生まれる「会所場づくり」、多様な市民活動の場として施設利用の促進を図る「貸館事業」、そして積極的にまちの活性化の目標を追求するための「自主事業」を市民の皆様と一体となって展開してきた。その結果、入館者数は開館以来、年々増加傾向にあり、2014年度は過去最高の98万人の入館者数を記録し、2014年5月に延べ入館者数が300万人を突破するなど、堅調に推移している。

また、中心市街地の歩行者通行量は2010年度と比べて約35%の増加、中心市街地の空き店舗・空き地率についても19.6%から11.9%と大幅に改善され、さらには、大型空きビルの民間再開発の動きが3事業あるなど、まちに目に見えて活気が生まれている。

また、はっちの館内ボランティアガイド及び自主事業のイベントボランティアを合わせた延べ参加者人数も年々増えつつあり、まちのために主体的に動ける市民の方々が続々と集まってきている。2014年からスタートした事業で、まちの活性化のために集まった市民ボランティアで結成された、ゆるやかな活動グループ「まちぐみ」には、市内外から50人以上が参加しており、アーティストの山本耕一郎氏のもとで、まちづくり活動への市民参加のあり方の新展開を模索しているところである。

はっちのまちなか効果を持続・発展させるためにも、これまで以上に地域に寄り添い、新しい考え方や手法を用いて「はっち流」に、市民のアイディアや意欲を支える取り組みを推進し、八戸の文化発信・創造拠点としての役割を果たしていきたいと考えている。



延べ入館者数300万人達成記念セレモニー



はっちの4周年 文化庁長官表彰受彰記念シンポジウム in はっち

創造都市八戸の発展に向けて

八戸は、伝統文化から新しい文化まで、多種多様な市民の特色ある文化活動が活発に行われているまちで、最近では、「アート」の力を活かしたまちづくりが展開されている。こうした取り組みが評価され、2014年5月に、県内で初となる「文化庁長官表彰（文化芸術創造都市部門）」を受彰することとなった。

これを契機に、はっち開館4周年の節目に、文化芸術を切り口とし、市民力をまちの活性化にどのように活かしていくかを、市内外でご活躍されている有識者の方々と現場のスタッフが語り合うシンポジウムを開催した。

八戸の創造都市としてのポテンシャルの高さを確認し合いながら、パネリストと市民の皆様とが、それぞれの立場で、文化芸術の力を使って八戸の魅力を高め、対外的に発信していくことを共有し、シンポジウムをまとめた。

■文化庁長官表彰受彰記念シンポジウム in はっち

・日時：2015年2月9日(月)

・参加者数：150名

・内容：○オープニングアトラクション(泉彩葉氏と長唄はっつ音会による日本舞踊)

○基調講演「創造都市八戸の発展に向けて」

講師 同志社大学特別客員教授、文化庁文化芸術創造都市振興室長 佐々木雅幸氏

○パネルディスカッション「文化芸術を活用したまちづくりの可能性」

コメンテーター 佐々木雅幸氏、小林眞(八戸市長)

パネリスト 今村ひろゆき氏(まちづくり会社ドラマチック代表社員、八戸ニューポートアドバイザー)

小林智栄氏(八戸市文化協会会員、青森県洋舞連盟会長)

小保内裕之(八戸市教育委員会社会教育課文化財グループリーダー)

大澤苑美(八戸市まちづくり文化推進室芸術環境創造専門職員)

柳沢拓哉(はっちコーディネーター)

コーディネーター 志賀野桂一氏(東北文化学園大学教授、はっちアドバイザーボード委員)



オープニングアトラクション



同志社大学特別客員教授 佐々木雅幸氏による基調講演



市内外の有識者によるパネルディスカッション

はっちの自主事業

「はっち」は「地域の資源を大事に想うこと」、「市民と協働で行うこと」、「まちなかに回遊させること」をコンセプトに、以下の4つの基本方針に基づいて、分野横断的に事業を展開している。また、市民ひとりひとりが多様な形で参加し、市民が主役になれる仕組みを設けており、地域資源の掘り起こしやシビックプライドの醸成、コミュニケーションの再構築につながるあらゆる取り組みが、市民の手によって日常的に行われている。

「はっち」の自主事業では、これからもたくさんの市民に関わっていただきながら、まちの歴史や文化を大事に想い、これまでとは違った視点からまちの魅力や地域の宝を発見していくことを目的に行っている。

中心市街地
賑わい創出
事業

文化芸術
活動振興
事業

ものづくり
振興事業

観光振興
・FM事業





イベント連携事業

まちなかがホコテンの時は
はちのお店も出店します！



はちのへホコテンや八戸七夕まつり、八戸三社大祭など中心市街地が歩行者天国になる際は、はっち食のものづくりスタジオの皆さんを中心に、館外に出店した。

ホコテン時だけの特別商品も用意したことで、お店に立ち寄りの方々が多く見受けられた。

館外に出店した際に来てくれたお客様が、今後ずっとはっちのお店のファンになってもらえるよう、館内への誘導方法などをお店の方と工夫していく予定である。

○実施日

- ・はちのへホコテン：5月～10月(7、9月を除く)最終日曜日
2014年5月31日、6月28日※中止
8月30日、10月25日
- ・八戸七夕まつり：2014年7月17日(木)～7月20日(月・祝)
- ・八戸三社大祭：2014年7月31日(木)～8月4日(月)

○協力：中心商店街連絡協議会 はちのへホコテン実行委員会



お祭り期間中は夕方から館外で出店



市民活動支援事業

市民の活躍の場を演出

■「ストリート投げ銭ライブ in はっち」

2014年より始まった「ストリート投げ銭ライブ in はっち」は、音楽ファンやパフォーマー達の発表の場として、月2回程度(年間20回)水曜日の夜にはっちひろばで開催。

来場者は、館内販売の飲食を楽しみながら観賞し、自分の気持ちに応じて「投げ銭」という出演者にとってはダイレクトに客の反応が伝わるステージ。出演希望者は多い。

・実施日:2014年5月～2015年3月(年間20回)

5月14日(水)、5月28日(水)

6月11日(水)、6月25日(水)

7月9日(水)、7月23日(水)

8月20日(水)、8月27日(水)

9月10日(水)、9月24日(水)

10月8日(水)、10月22日(水)

11月5日(水)、11月19日(水)

12月3日(水)、12月17日(水)

1月21日(水)

2月18日(水)

3月11日(水)、3月25日(水)

開場:18:30

開演:19:00

終演:20:00

・入場料:無料

・来場者数:1回平均 約30名



■「はっちがずっぱど南部弁」～うん、これアよごあんすナ～

第2回目となる「はっちがずっぱど南部弁」は、第一章では、「アナと雪の女王」の南部弁バージョン上映とトーク、NHKラジオ体操の南部弁バージョンや昔コ語り、第二章では、青森県南部弁・津軽弁・岩手県南部弁のサミットを開催。風土・環境の違いで言葉の意味・アクセント・イントネーションが変化する様子など、方言が地域の資源であることを伝える内容となった。

また、インフォメーションをはじめ、南部弁での館内放送や貼り紙などはち全館を南部弁一色に染めた。

・実施日：2014年12月6日(土)

第一章：15:00～17:30(はっちひろば)

第二章：18:30～20:00(シアター2)

・参加者数：第一章約200名、第二章約90名

共 催：南部弁の日実行委員会

協 力：昔コ語り部養成講座受講生9名、八戸市立大久喜小学校3～4年生、岩手県釜石市(漁火の会)、学校法人弘前学院大学方言クラブ、城野晴子氏



■銀座美人塾 in はっち

「美と健康の専門家 対馬ルリ子先生から学ぶ
～真の美人を目指すために～」

八戸特派大使であり、ウィメンズ・ウェルネス銀座クリニック理事長の対馬ルリ子氏とミス・ユニバース・ジャパン公式栄養コンサルタントのエリカ・アンギャル氏のトークセッションなど、美と健康をテーマとする講座を開催。

・実施日：2014年8月2日(土) 13:00～15:00

・来場者数：約100名

・受講料：500円





中心市街地
賑わい創出
事業

ライブラリ事業

本を楽しむライブラリ。
一箱古本市も開催。

はっち2～4階に設置されたライブラリ。2014年度も多様な書籍を購入・設置。書籍を紹介する月例特集も毎月開催。9月20日には八戸でははじめての「一箱古本市」を開催。県内外からの出店者による古本市、地元印刷会社の社長による和とじ製本ワークショップなど、本を楽しむ一日を演出した。

11月からは4階本棚に設置されている写真集を楽しむ「写真集の楽しみ方を探る雑談会」をスタート。毎月開催で、次年度も継続中。

■2階：「八戸を知る・日本を知る」

文化や観光のほか、各分野で活躍している八戸ゆかりの方々が人生の転機、岐路に大きな支えとした本や常日頃からよく読んでいる本を推薦している「私の本棚」や、八戸市長の本棚などがある。本棚から、推薦者の新たな一面を垣間見ることができる。

■3階：「地元の文学者を知る・深める」

芥川賞受賞作家の三浦哲郎や郷土の詩人・村次郎の作品のほか、八戸ゆかりの方の俳句や短歌の本を自由に閲覧できる。八戸が俳句や短歌の盛んなまちであることを実感できる充実の蔵書である。

■4階：「アートやデザイン、食やものづくり、画集、雑誌」

アートやデザインの雑誌や写真集、広告や情報発信の参考になる雑誌、大人も子どもも楽しめる絵本、暮らしの提案雑誌などが充実。新しい刺激や感性に出会う、仕事のヒントになる、趣味の幅が広がるなど、多様な活用ができるラインナップとなっている。

■はっちの一箱古本市

- ・日時：2014年9月20日(土)
- ・参加者数：出店者12組 来場者約200名
- ・内容：出店者が個性的なラインナップの書籍を一箱分持ち寄って販売。和とじ製本のワークショップを開催するほか、デーリー東北新聞社、八戸学院大学が主催するビブリオバトル[※]の会場となるなど本づくしの一日となった。

ビブリオバトル…参加者自身が読んで面白いと思った本を持ち寄って紹介し合い、みんなが一番読みたくなったチャンプ本を選ぶ書評会。

■写真集の楽しみ方を探る雑談会

- ・日時：2014年11月18日(火)から毎月1回開催
- ・参加者数：1回平均約10名



4階ライブラリ月例特集の様子



「はっちの一箱古本市」開催当日の風景



毎月開催の写真集鑑賞ワークショップ

中心市街地
賑わい創出
事業

はっちのゴールデンウィーク

アート、スポーツ、フードでドドンッ！！と
楽しむ11日間



例年開催している恒例イベントのほか、春や子どもの日にちなんだプログラムを展開。ニュースポーツ体験やLEDランプの制作、家族総出の運動会にポタリングといった参加型のイベントなど、バラエティ豊かなイベントを連日開催した。

■あそぼう！ニュースポーツフェスティバル

(子どもから大人まで楽しめるニュースポーツ体験を実施)

・実施日：2014年4月26日(土)

・参加者数：約250名

・主催：八戸市レクリエーション協会

■色えんぴつ画展「四季の草花百花」

～あなたはなんの花が好きですか～

(四季折々の花々100輪の色鉛筆画展)

・実施日：2014年4月26日(土)～5月2日(金)

・主催：名無無子氏

■虎舞水飲み場オープニング2014

～トラの舞がつむぐ三陸の絆～

(冬季休止していた水飲み場を賑やかな催しで共用再開)

・実施日：2014年4月27日(日)

・観覧者数：約150名

・出演：左比代虎舞、吹上小バトン部、ミネハハ、桜田まこと他

・主催：八戸圏域水道企業団

■Marché×Buy はちのへ

(フード・アイテムなどが並ぶマルシェとステージイベントを開催)

・実施日：2014年4月29日(火・祝)

・主催：八戸商工会議所

■あなたも待！？八戸やぶさめ紹介展&ワークショップ

(やぶさめの映像・写真展示のほか、木馬に乗って矢を射たり衣装着付けなどのワークショップを開催)

・実施日：2014年4月30日(水)～5月6日(火・休)

・実施：八戸地域神事流鏝馬再興会

■LEDで和風ランプを作ろう！

(LEDのエコな和風ランプの制作ワークショップを開催)

・実施日：2014年4月30日(水)～5月6日(火・休)

・体験料：800円

・実施：工作工房 鈴木篤史氏

■さんかく展&ワークショップ

(八戸工業大学感性デザイン学科有志による絵画展、特製紙によるさんかく封筒作りのワークショップを開催)

・実施日：2014年5月1日(木)～6日(火・休)

・実施：八戸工業大学感性デザイン学科有志

■自転車のまわりにある世界～ものづくりの視点から～

(ヴィンテージ自転車やウェアの展示、自転車のたたみ方講座、フレームビルダー盛合博美氏のトークショーを開催)

・実施日：2014年5月2日(金)～6日(火・休)

・トークショー：2014年5月2日(金)

・参加者数：約20名

・主催：高橋晃氏(高校教諭・植物研究者)

■気ままに自転車散歩「ポタリング～春色さがし～」

(講師のうんちくを聞きながら市内を巡るポタリングを実施)

・実施日：2014年5月3日(土・祝)・4日(日・祝)

①3日5kmコース 長者山・まちなかコース

②4日15kmコース 港町コース(新むつ旅館・館鼻公園)

・参加者数：①7名 ②10名

・主催：高橋晃氏(高校教諭・植物研究者)

・参加費：300円

■こどもはっち 3世代ファミリー運動会

(おじいちゃん、おばあちゃん、親子で参加する運動会を開催)

・実施日：2014年5月6日(火・休)

・主催：はちのへ未来ネット(こどもはっち)

・参加者数：約80名



予定数を大幅に超え盛況だったLED制作ワークショップ



子どもから大人まで楽しんだニュースポーツフェスティバル



四季折々の花100輪を会場いっぱいに表示

中心市街地
賑わい創出
事業

はっちのたなばた

夏の最高潮へ向かう1か月
八戸の夏がスタートする七夕まつり



市内幼稚園、保育園の園児がつくった七夕飾りを展示

七夕にちなんださまざまなプログラムを展開、シーグラスの展示やお茶会、音楽のコンサートや毎年話題になる夏のブイヤベースフェスタなど、盛りだくさんの内容で開催し、大勢の市民が思い思いに楽しんだ。

さらに、七夕の願掛けも恒例となり、来館者がそれぞれの願い事を短冊にしたため、大きな青竹に特別な想いを結んだ。… 皆様の願い事が叶いますように。

■はっちひろば天空の短冊/竹短冊

(市内の幼稚園児、保育園児が作った七夕飾りや、来館者が書いた短冊を展示)

- ・実施日: 2014年7月1日(火)~21日(月・祝)
- ・協力: 八戸市私立幼稚園協会、八戸市保育連合会
- ・参加者数: 約2,000名

■シーグラス展示

(波や風など自然の力によって作られたシーグラス。そのシーグラスで作ったランプなどを展示)

- ・実施日: 2014年7月5日(土)~21日(月・祝)
- ・主催: 柳田真理子氏
- ・参加者数: 約1,000名

■七夕ライブ

(市内のイベントで活躍する若手バンドのロックコンサート、オカリナライブを開催)

- ・実施日: 2014年7月6日(日)、12日(土)
- ・出演: 6日 サタンオールスターズ
12日 オカリーナ ange
- ・参加者数: 約260名
- ・入場料: 6日 1,000円(高校生以下無料)、12日 無料

■こどもはっち夏まつり

(はっち全館をこどもはっちに見立て親子で楽しめる体験・イベント・公演を開催)

- ・実施日: 2014年7月13日(日)
- ・主催: はちのへ未来ネット(こどもはっち)
- ・参加者数: 約300名

■たなばた茶会

(八戸七夕まつりの当日、夕涼みのお茶会を開催)

- ・実施日: 2014年7月19日(土)
- ・主催: 茶道裏千家淡交会青森青年部
- ・参加者数: 約300名
- ・茶券代: 400円

■夏のブイヤベースレストラン

(八戸港産の魚介類をふんだんに使った特製「八戸ブイヤベース」を二日間限定で提供)

- ・実施日: 2014年7月20日(日)・21日(月・祝)
- ・主催: 八戸ハマリレーションプロジェクト
- ・参加者数: 約1,000名
- ・一人前: 800円 各日400食限定



市内の腕利きのシェフ合作によるブイヤベースが大好評



浜辺に打ち上げられたシーグラスで作ったランプを展示



七夕飾りの中で開催した市民茶会



はっちのクリスマス

見て、聴いて、食べて！

盛りだくさんのはっちのクリスマス

毎年恒例となったはっちのクリスマスツリー点灯式。2014年は株式会社青森テレビ(ATV)と合同企画で「ATV 開局45周年記念番組」内で点灯式の様子を生中継。ダンスパフォーマンスやせんべい汁のお振る舞いもあり、たくさんの市民と点灯の瞬間を迎えた。12月中旬からは「クリスマス絵本展」や「MixJuice 展スパークリング」が始まり、大人から子どもまで、見て触れて楽しめる企画が人気を集め、クリスマスイベントの最後を飾る「はっちのクリスマス4Daysライブ&コンサート」では、市内で活動している8組がライブを実施、クリスマスを盛り上げる最高の演出となった。

■菓子まつり・八戸いちごマルシェ・Buyはちのへ5th アニバーサリー

(市内菓子店が集まる菓子の祭典、八戸いちごに関するフォーラム及び販売)

- ・実施日:2014年11月29日(土)・30日(日)
- ・共催:八戸菓子商工業組合・八戸市農業経営振興センター・八戸商工会議所
- ・入場者:約1,200名

■クリスマスツリー点灯式×ATV 開局45周年感謝祭

(はっちのクリスマス点灯式の様子を青森テレビ45周年記念番組で生中継)

- ・実施日:2014年12月1日(月)
- ・入場者数:約300名

■クリスマスイルミネーション・ツリー・リース展示

(毎年恒例となったクリスマスツリーイルミネーションをはっちひろばへ、リースをギャラリー1へ展示)

- ・実施日:2014年12月1日(月)~25日(木)
- ・協力:リース製作 小川重子氏(アトリエ小さな花)

■クリスマス絵本展

(クリスマス絵本の展示と絵本の読み聞かせ)

- ・実施日:2014年12月13日(土)・14日(日)
- ・入場者数:約400名
- ・実施:八戸高専地域文化研究センター

■クリスマス料理教室 ☆今年は親子で手作りクリスマス

(シチューフォンデュや具だくさんミネストローネを自宅でも親子で楽しく作れる料理教室)

- ・実施日:2014年12月14日(日)
- ・参加者数:47名
- ・講師:なぎさなおこ氏(ナギサカフェ)
- ・参加費:3歳~未就学児500円 小学生以上1,000円

■はっちのクリスマス4Daysライブ&コンサート

(音楽・ダンス・朗読のライブ・コンサートを1日2回公演で4日間連続で開催)

- ・実施日:2014年12月21日(日)~24日(水)
- ・入場者数:約900名
- ・出演:バトンチーム Aries、セッチー&Liberty、むつぼし友の会朗読部、Mojo山内Duo、八戸アンサンブルカンパニー、G.S.T、八戸聖ウルスラ学院、蛇口由美子

■はっち親子クリスマスシアター

(午前零時のトイシャドウ、世界名作アニメの上映会)

- ・実施日:2014年12月24日(水)・25日(木)
- ・入場者数:約40名

■公募企画① X'mas を彩るステンドグラス展

(X'mas をモチーフにしたステンドグラスの展示)

- ・実施日:2014年11月29日(土)~12月7日(日)
- ・入場者数:約500名
- ・実施:Hikari のおくりもの【ワークショップ】(ステンドグラスの小物製作)
- ・参加者:74名
- ・参加費:1,500円~3,200円

■公募企画② MixJuice 展 スパークリング

(クリスマス为主题にした絵画、映像展示、ツリー展示)

- ・実施日:2014年12月12日(金)~25日(木)
- ・入場者数:約450名
- ・実施:MixJuice【ワークショップ】(クリスマスカード製作ワークショップ)
- ・実施日:2014年12月13日(土)、14日(日)、20日(土)、21日(日)、23日(火)
- ・参加者:79名
- ・参加料:200円~500円



青森テレビでクリスマスツリー点灯式を生中継



バトンチーム Aries によるバトンショー



親子で楽しめる料理教室を開催

中心市街地
賑わい創出
事業

はっちのお正月

新春のお祝いを盛大に！



はっちのお正月も4回目を迎え、八戸中心商店街連絡協議会と連携して多彩なプログラムを開催。

多くの来館者が詰め掛けるなか、八戸東高校書道部書道ガールズによるパフォーマンスをはじめ、新春を祝う箏演奏や吹奏楽団のライブ、ヴァンラーレ八戸・東北フリーブレイズ・青森ワッツ・イタチカ八戸の4チームによるニュースポーツ対決やミニチュア工房ちびつ@による作品展を開催し、大いに盛り上がった。

最後は、元気に一年を過ごせますようにと無病息災の願いを込めた法霊神楽一斉歯打ちで、はっち館内はお正月一色に染まった。

実施日：2015年1月2日(金)

入場者：約1,500名

共催：八戸中心商店街連絡協議会

■新春書道ガールズ・パフォーマンス

出演：八戸東高校書道部

■八戸スポーツチームお正月対決2015

出演：ヴァンラーレ八戸、東北フリーブレイズ、青森ワッツ、
イタチカ八戸

■新春箏曲演奏 出演：八戸雅美会

■法霊神楽一斉歯打ち 出演：おがみ神社法霊神楽保存会

■ニューイヤールライブ 出演：八戸ウインドアンサンブル

■ちび展 出演：ミニチュア工房ちびつ@



東高校書道ガールズパフォーマンス

■つり雛飾り・松坂つやとすてきな仲間たち！

・実施日：2015年1月2日(金)～1月31日(土)

・実施：松坂つや氏、つり雛愛好会

【ワークショップ】

・実施日：2015年1月17日(土)～1月18日(日)

・参加者：54人

・参加費：500円

○中心商店街のイベント(はっち前会場)

実施日：2015年1月2日(金)

もちつきお振る舞い(先着250名様)



つり雛展示の様子

中心市街地
賑わい創出
事業

はちのへ雛めぐり

雛人形で冬のまち歩き



江戸～現代まで約200体の雛が勢ぞろい

2015年で4回目となった「はちのへ雛めぐり」。雛人形の展示会場は、これまでの更上閣・南部会館・はっちの3会場に街かどミュージアムが加わって4会場となった。はちのへ雛めぐりも回を重ねるごとに、冬の中心街を楽しみながら回遊するイベントとして徐々に定着し、1か所だけではなく他の会場も見てみようかと各会場を「めぐる」方が増えてきた。

■雛人形展示

- ・実施日：2015年2月28日(土)～3月22日(日)
- ・来場者：4,339名

■なりきりおひなさま

- ・実施日：2015年3月1日(日)
- ・参加者：219名
- ・実施：NPO法人はちのへ未来ネット

■箏演奏会

- ・実施日：2015年3月1日(日)
- ・来場者：40名(満席)
- ・実施：生田流箏曲松の実会

■大正琴演奏会

- ・実施日：2015年3月2日(月)
- ・来場者：40名(満席)
- ・実施：琴城流大正琴 八戸琴華会

■篠笛演奏会

- ・実施日：2015年3月6日(金)
- ・来場者：30名
- ・実施：篠笛山口流山口千舟氏・山口千笙氏

■お茶席

- ・実施日：2015年3月22日(日)
- ・来場者：280名
- ・実施：岡田茂吉美術文化財団八戸支部
- ・茶券代：300円

○主催

三八五交通株式会社、一般社団法人八戸市オールオール厚生会、街かどミュージアム、八戸市(まちづくり文化推進室)

○協力

公益社団法人岡田茂吉美術文化財団八戸支部、NPO法人はちのへ未来ネット、いちいの会、八戸市美術館ボランティアハビボ会、中心街各協力店舗



かわいいお雛様、お内裏様に会場は笑顔に包まれた



「紅白梅図屏風」「風神雷神図屏風」のレプリカを前にお茶席でひと休み



中心市街地
賑わい創出
事業

はっち新規ファン開拓事業 第3回八戸市民ロボコン

ご当地ロボコン大会
「朝市」をテーマに対決

市民でつくるロボコン大会の2回目は八戸名物の「朝市」がテーマ。「市場へGO!」と題して、トラックに模したロボットで荷物を運ぶ速さを競う大会を、はっち4周年記念事業として2015年2月11日に開催した。2014年11月頃から参加者公募をスタート、今回も子どもからご年配の方までさまざまな方が参加し、その腕を競った。実行委員4名に加え、地元の大学生が指導スタッフとして参加し、多くの協力を得て実現した大会であった。

■八戸市民ロボコン「市場へGO!」

- ・実施日:2015年2月11日(水・祝)
- ・参加チーム:13チーム(1チーム出場辞退)
- ・大会観覧者数…約100名
- ・参加料:1,500円

○共催

八戸市民ロボコン実行委員会

○協力

八戸市中学校ロボコン、八戸市視聴覚センター・児童科学館

今年のロボコンは朝市だ!

八戸市民ロボコン 2015

はちのへ朝市ロボコン 市場へGO!

2015年2月11日(水・祝)
13:00 いざ決戦!

八戸ポータルミュージアムはっち はっちひろば

● 初心者大歓迎 大会参加者募集!

- 1.応募条件: ロボットを制作できる八戸市民(年齢不問)
- 2.人数: 1チーム2名でご応募ください
- 3.参加費 1,500円(ロボット1台分の基本キット代含む)
- 4.趣味や工夫材料は各自負担になります。
基本キットだけでも試合参加可能です。

詳しくは裏面

主催: 八戸市民ロボコン実行委員会 八戸市(八戸ポータルミュージアムはっち)
協力: 八戸中学校ロボコン 八戸市視聴覚センター・児童科学館



参加者集合、みんなで頑張った



工夫とデザインに溢れるロボットたち



文化芸術
活動支援
事業

まちぐみ事業

市民の「やってみたい！」をサポートし
中心商店街にワクワク感とまち歩きが楽しくなる
仕掛を目に見える形で作る「まちぐみ」。



まちぐみメンバーが力を合わせて作業を進めた

八戸で暮らす人々の「やってみたい！」を“まちぐるみ”でサポートしてカタチにする「まちぐみ」。アーティストの山本耕一郎さんがプロデュースし、中心街のお店をまちぐみメンバーと一緒にリノベーション。思いがけないアイデアで、まちをちょっとずつ楽しくするプロジェクトが進行している。

■まちぐみリノベーション店舗

本八戸駅通りから十三日町まで、中心商店街の下記6店舗の改装を手がけた。看板の設置や人形造形から、暖簾の縫製作業など様々な作業を、まちぐみ山本組長とまちぐみ会員の皆さんと一緒に実施。

○きものサロンたちば、花亀(八戸葬祭)、はちのへ額装、小井川種苗店、
まちの駅はちのへ、コミュニティラジオ局 BeFM

■まちぐみ事務所リノベーション

はっち館内4階ものづくりスタジオ1室を、中心商店街空き店舗に進出するまでの仮店舗として、リノベーションした。新規入会希望者はこちらで加入受付。

■まちぐみへの市民ボランティア入会

まちを元気にしたい！まちで楽しいことがしたい！という方々が「まちぐみ」メンバーとして加入。2014年度は50名を超える皆様が加入。それぞれの得意技を活かして活動いただいた。市民ボランティア集団として、八戸のまちをもっと面白くするための活動を続けていく。

■まちぐみ新聞発行

まちぐみの動きについて、あえて瓦版形式の新聞を発行し、商店街やはっちで配布。2014年度は創刊号と7本の速報を発行した。



はっち4Fの賑やかな雰囲気のみちぐみ事務所



店主の思いを何度も伺って取り掛かった



新聞を発行したり、様々な広報活動を行いながら、メンバーを増やしていった





文化芸術
活動支援
事業

はっち魚ラボ

八戸の魚食文化に 多角的に迫ったプロジェクト

太平洋沿岸に位置する八戸市は、魚食文化豊かな街であることから、八戸に根付いている「魚食」文化にフォーカスし、「はっち魚ラボ」として、通年でさまざまなプログラムを開催。

多彩なゲストを迎えて毎月開催した「魚ラボ会」では、水産庁の上田勝彦氏や地元の魚屋「福真」代表取締役福田充宏氏などをお招きし、魚や水産について知見を深めた。

市民参加で魚食情報を収集・発信する「hacchi fishing」では、八戸水産高校の学生や白浜の女性の方々と一緒に「はっち魚食ガールズ鍋」を開発。高校生が開発した「イカサバ団子のトマト風味鍋」は築地市場まつりの「鍋グランプリ」に出店し好評を得た。

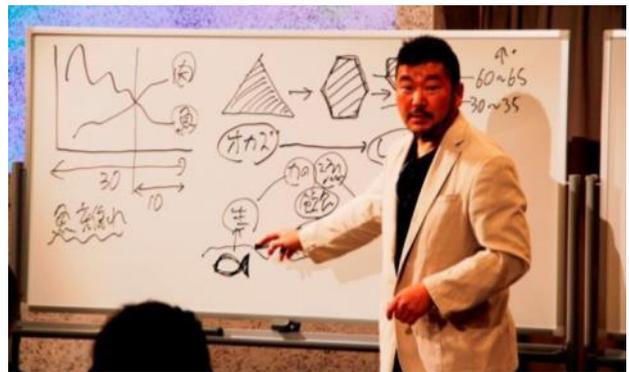
また、バリ島の伝統芸能ケチャの様式で八戸名物のイカとサバの物語を作り上げた「はちのへ魚ケチャ」では高校生たちを中心に、八戸ならではの演目を作り上げた。

さらに、写真家の田附勝^{たつきまさる}氏が八戸の沿岸部を1年間にわたって撮影した写真シリーズ^{ぎょじん}「魚人」は、海沿いの文化にこれまでとは違った視点から光を当て、魚と人、海と人との遠い昔からの関わりを写真で表現。

その他さまざまなプログラムを実施し、この土地の魚食文化に多角的に切り込み、多くの市民の方に、八戸の魚食文化、海の文化の深さと楽しさを伝える機会を創出することができた。

協賛：富士フィルム株式会社

協力：八戸市南浜漁業協同組合、八戸鮫浦漁業協同組合、白浜・深久保・大久喜・金浜など浜のみなさん、デコラドライバーのみなさん、青森県立八戸水産高等学校、有限会社ジーエムケーブラザーズ、青森県立八戸東高等学校演劇部、コミュニティラジオ局 BeFM、八戸市営魚菜小売市場、八戸市水産事務所、八戸市博物館、八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館



水産庁の上田勝彦氏によるトークイベント



「魚人」展フライヤー



魚菜市場の各店舗に制作した「目玉看板」



力強い写真が並べられた魚人展風景



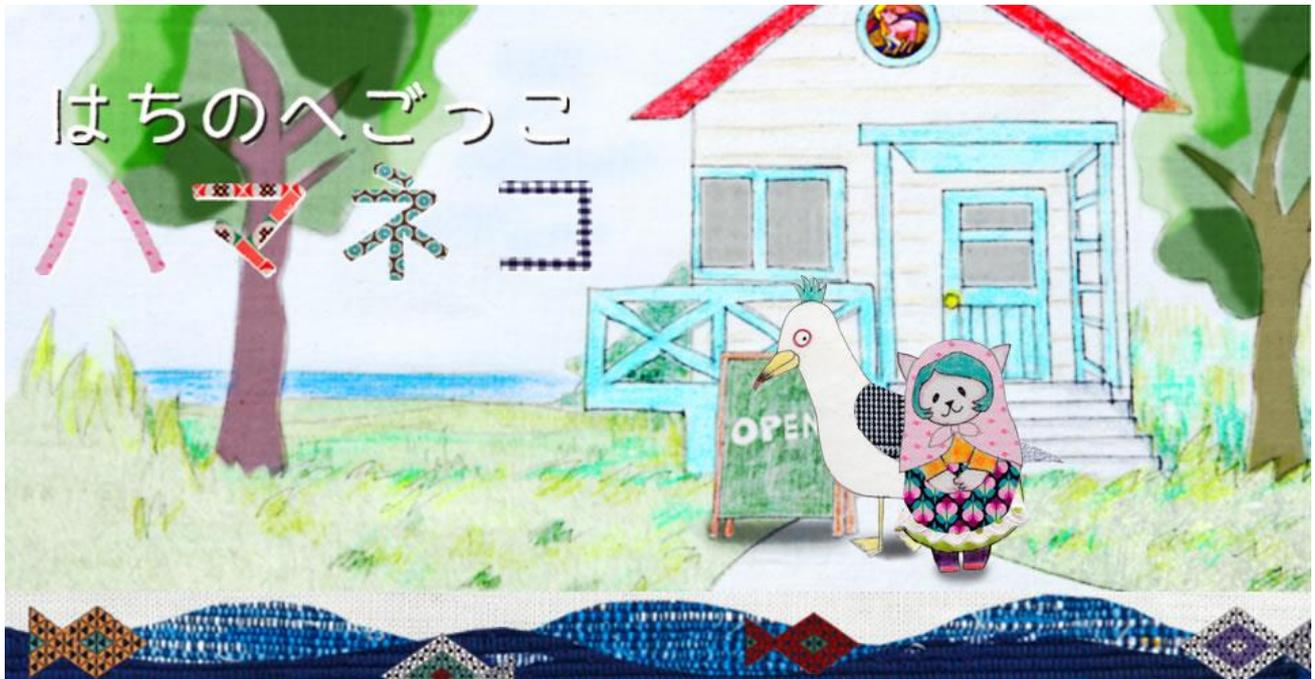
福真の福田充宏氏による魚のさばき方講座



魚食ガールズ鍋は築地で完売



八戸の水産を支えたデコラ(デコレーショントラック)が集合



大島亜佐子「はちのへごっこ『ハマネコ』」メインビジュアル

文化芸術
活動支援
事業

アーティスト・イン・レジデンス事業 アートを通して浮かびあがる八戸の魅力

はっちではアーティスト用のレジデンス(滞在)施設を備えている。2014年度は2組のアーティストが事業を実施。SAMA・YAMA(阿部さやか、マヌス・スウィーニー)は陸奥湊魚菜市場に滞在して絵画と映像「ハチノヘものがたり」の制作を実施。魚菜市場で働く人々と親密に関わりながら、海とともに暮らす人々を暖かいタッチで描き出した。また、「うめぼし/八助ポートレート」など市民参加型プログラムも実施した。

大島亜佐子氏は、八戸の沿岸部を舞台にしたアニメーション作品「はちのへごっこ『ハマネコ』」を制作。南部裂織などを取り入れた画面構成、市民による声優参加、八戸ゆかりのミュージシャン坂本サトル氏による主題歌制作や地元シェフ三浦祐紀氏による劇中料理開発など、八戸にこだわったクオリティの高いアニメ作品となった。

いずれの映像作品もインターネット動画配信サービス YouTube で公開を行なっている。

2012年度より滞在アーティストの公募を行なっている。2014年度のアーティスト公募では8組の応募があり、その中からコミュニケーション作家の YORIKO を選出した。(2015年度に「八戸ロマン時空探検隊」を実施)



SAMA・YAMA は八戸市営魚菜市場の2階で制作



SAMA・YAMA 映像作品「ハチノヘものがたり」より



「はちのへごっこ『ハマネコ』」の声優は市民。小学生2人が主役

文化芸術
活動支援
事業

和日カフェ

毎月第3日曜日は
日本文化に親しむ日



市民が気軽に日本文化に親しめる場の提供や、各文化団体の活躍の場の創出、中心街の賑わい創出などを目的に毎月第3日曜日に開催している「和日カフェ」は今年で4年目。徐々に和日カフェが定着してきたこともあり、和日カフェと同じ日に自主的にイベントを実施する団体も増え、この日に館内全体で日本文化を楽しんでもらいたいという団体の活発な動きもみられた。

■2014年4月20日(日) 200名

いけばな「ワイヤーネットを使って、いけてみよう」
茶席「海をテーマに春を感じてみませんか？」
時代劇トーク・体験
「日本人の心の安らぎ～時代劇に触れてみませんか？」
○協力団体：一葉式いけばな青森県支部、裏千家武輪社中、
苔米地祥宏氏

■2014年6月15日(日) 190名

いけばな「ガラス瓶を使ってお洒落に、涼しく」
茶席「野点(のだて)で一服」
時代劇体験
「日本人の心の安らぎ～時代劇に触れてみませんか～その2～」
○協力団体：一般財団法人小原流八戸支部、江戸千家不
白会八戸支部、苔米地祥宏氏

■2014年5月18日(日) 135名

いけばな「身近な花でいけばな体験」
茶席「緑みずみずしく薫る風茶席」
○協力団体：日本生花司松月堂古流青森県支部、遠州流
八戸支部

■2014年7月20日(日) 120名

いけばな「季節のお花で遊んでみませんか？」
茶席「織姫と彦星になって素敵な出会いをしませんか」
○協力団体：池坊八戸支部、江戸千家岩手不白会木村社中



春を呼ぶ華麗な舞



身近な草花でいけばなを楽しむ



投扇興を体験してみよう



お茶点を体験



詩吟を目の前で堪能



習字を気軽に体験

■2014年8月17日(日)「五感で感じる夏」 1,097名
 【茶道宗偏流青森支部審心会 岡本潤子氏プロデュース企画】
 茶席「あなたも CHA-茶-チャ! ~お茶を点ててみませんか? ~」、「イップクイカガ?」
 体験・講演「あなたも和美人」、「素敵なポチ袋を作りましょう!」、「風呂敷美人になろう!」、「投扇興を体験しませんか?」、はっちのお化け屋敷「八戸妖怪伝説~きけんだ! メドツがでるぞ! ~」、「五感で夏を感じよう!」
 ○協力団体:茶道宗偏流青森支部審心会 岡本潤子氏、八戸グランドホテル 高畑紀子氏、投扇興を楽しむ会はなみずき連、NPO 法人はちのへ未来ネット、詩仙堂 矢田部裕子氏・矢田部裕美氏

■2014年9月21日(日) 440名
 フラワーアレンジメント
 「暮らしに花を~お花を見て・触れて・いけてみよう~」
 茶席「お茶席~お月見~」
 ○協力団体:岡田茂吉美術文化財団八戸支部、茶道宗偏流青森支部

■2014年10月19日(日) 268名
 着物ファッションショー、八戸小唄スペシャル vol.2
 いけばな「秋を感じて」、茶席「秋の茶会」
 ○協力団体:NPO法人はちのへ未来ネット、阿部のり子氏、Swing Berry JAZZ Orchestra、鼻☆ロケッツ、八戸小唄八幡馬のうた雅会

■2014年11月15日(土)、16日(日) 120名
 いけばな「和と洋で彩るクリスマス~フラワーアレンジメント作品展~」、「和室にもぴったりなクリスマスツリーを作ろう」
 茶席「霜月の茶席」
 ○協力団体:フラワーアレンジメント Acoustic Flowers、遠州流茶道八戸支部

■2014年12月20日(土)、21日(日) 122名
 いけばな「クリスマスに飾る花を生けてみよう」
 茶席「お茶席 de プロジェクションマッピング」(八戸ライトショーフェスティバル 2014 企画)
 ○協力団体:一葉式いけばな青森県支部、江戸千家不白会八戸支部、加藤直礼氏

■2015年1月18日(日) 250名
 第2回はっち杯 はちのへ郷土かるた大会、昔あそび体験コーナー、掛け軸展&掛け軸素材でしおり作り、初春おどり暦~日本舞踊公演~、茶席「新春点初め」
 ○協力団体:たちばな表具会、泉流紫峰会、泉流彩菜会、遠州流八戸支部

■2015年2月15日(日) 340名
 【八戸市文化協会プロデュース企画】
 書道作品展・1日無料習字体験、春を寿ぐ謡と仕舞、表千家立礼席とおもてなし体験講座、篆刻・刻字体験、春を呼ぶおどり・踊り
 ○協力団体:八戸市文化協会、日本習字香墨会、八戸宝生会、表千家青森県支部八戸地区、朝日堂、花柳流葉昌栄会、若柳流柳永会、泉流珠峰会、水木流優吉会、日本舞踊と邦楽藤清會、泉流彩菜会、詩吟八戸岳智会、八戸小唄八幡馬のうた雅会

■2015年3月15日(日) 124名
 いけばな「春の花を楽しむ~いろんな器を花入れに~」
 茶席「雛の茶席」
 ○協力団体:草月会青森県支部、裏千家武輪社中



掛け軸の布を使ったしおり作り



子どもたちの日本舞踊発表会



真剣な眼差しでかるたを探す子どもたち



大人も子どもも楽しんだ昔あそび体験



刻字体験で自分のオリジナル判子作り



子どもたちの着物ファッションショー

八戸ライトショー・フェスティバル 市内外のクリエイターがジャンルを越えて 表現する「光と映像のフェスティバル」

期間中開催するプログラムだけで延べ12企画におよび、中心商店街や他文化施設とも連携して実施。市民参加企画からクリエイターの国際コンペまで音と光と映像にまつわる多様な企画が融合したフェスティバルを開催した。

光と映像をテーマに実施した多彩な企画では、CG制作会社、サラリーマンクリエイター、市内音楽バンド、都内の女子大学生、茶道団体、DJやVJ、郷土玩具制作会社など多様なジャンルの方々との関わりのもと、プレ事業の段階から中心街の店舗や多くの市民に携わっていただくことができた。

はっち裏の番町スクエアで開催した「幻想スクエア」は、市内で初開催となる本格的プロジェクションマッピングで、投影される映像の一部には事前ワークショップに参加した市内児童の作品も反映されていることもあり、連日、世代を超えた多数の市民で溢れかえった。

空き店舗に投影した「リケジョマッピング」や、中心街の百貨店4箇所です小型プロジェクションマッピング作品を展示する「メドツもビックリ!! マッピング百貨店」など、はっち館外で開催する事業も多く、若い世代を中心に多数の市民に中心街を回遊してもらう大きな効果が生まれていた。

- 特別協賛: エプソン販売(株)
- 協力: エプソンアートミックス(株)

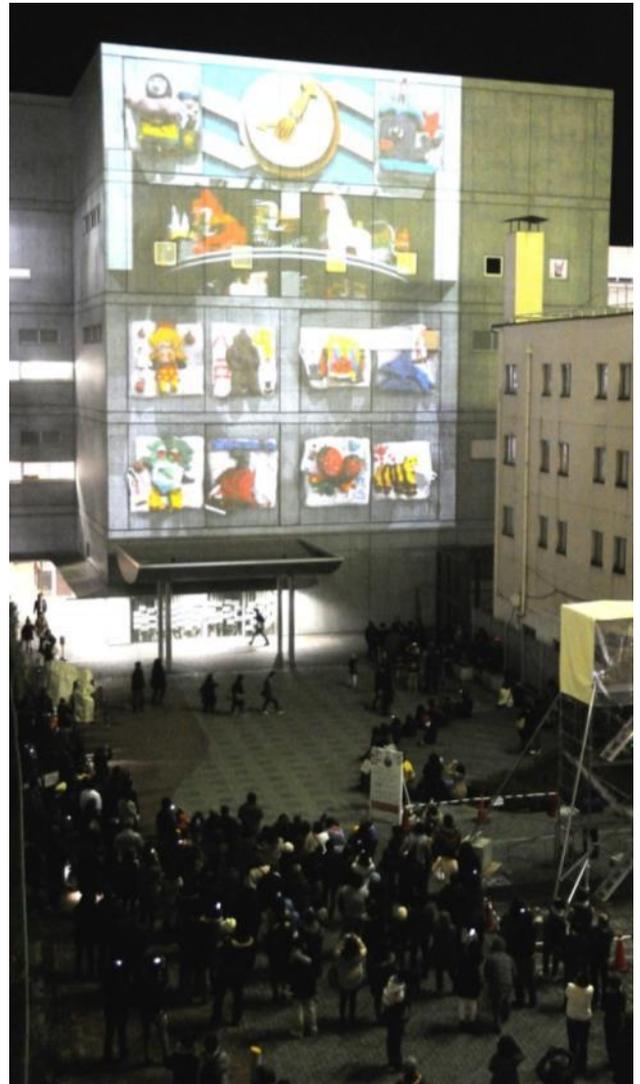
■まちなかLEDあんどんプロジェクト

(店頭にお店オリジナルあんどんを灯し、いつもとは雰囲気の違いを演出。)

- ・日時: 2014年12月1日(月)～25日(木)
- ・会場: 中心街参加24店舗
- ・監修: 工作工房

【ワークショップ】

- ・日時: 2014年11月4日(火)、6日(木)、18日(火)、27日(木)
- ・参加店舗: 24店舗
- ・監修、講師: 工作工房



■光の回廊～LEDランプテラス～

(クリスマスツリーの形をしたLEDランプで光の回廊を演出、そのランプを制作するワークショップも開催。)

- ・日時: 2014年12月12日(金)～21日(日)
- ・監修: 工作工房

【ワークショップ】

- ・日時: 2014年11月29日(土)、12月6日(土)、7日(日)
- ・監修、講師: 工作工房
- ・参加者: 74名
- ・体験料: 1,000円

■My Ambivalent Light Vol.1

(八戸市で活動しているアコースティックバンドによる映像と音楽のコラボレーションライブを開催。)

- ・日時: 2014年12月19日(金)
- ・出演: (In the) Middle Of Nowhere
- ・参加者: 60名



■巨大やわたうマッピング 国際コンペティション

(高さ2m の巨大な八幡馬に投影する3Dプロジェクションマッピング作品を国内外から公募し、作品を投影)

【トークショー】

・日時:2014年12月19日(金)

・トーク出演:(株)IMA代表取締役 川村行治、タカヨシ氏、
日本プロジェクションマッピング協会理事長 石
多未知行氏、株式会社八幡馬代表取締役
高橋利典氏

・参加者:20名

【映像投影】

・日時:2014年12月20日(土)、21日(日)

■飛び出せ! みんなの八戸! プロジェクションマッピング幻想スクエア

(夏に実施した親子ワークショップ参加者の作品を3Dプロジェクションマッピング映像に変換しはっちの壁面に投影)

・日時:2014年12月19日(金)~21日(日)

・来場者:1,800名

・会場:番町スクエア

・監修、実施:(株)ゼロニウム

【ワークショップ】

・日時:2014年8月9日(土)、10日(日)

・監修、講師:(株)ゼロニウム

・参加者数:57名

■メドツもビックリ!! マッピング百貨店

(中心街のショッピングビル4か所に八戸をテーマとするプロジェクション・マッピングの小作品を展示。)

・日時:2014年12月19日(金)~21日(日)

・会場:さくら野百貨店八戸店、中合三春屋店、チーノ八戸、
ヴィアノヴァ

・監修、制作:加藤直礼氏

・協力:各会場店舗

■八戸市公会堂ロビーが3日間だけ『TOY BOX』に大変身!

(ライトペインティングによる画像投影、イルミネーションライトアップで公会堂ロビー全体を演出。)

・日時:2014年12月19日(金)~21日(日)

・会場:八戸市公会堂ロビー

・実施:(株)アート&コミュニティ

・来場者数:236名

■DJ・VJ night クラブはっち

(市出身 DJ・VJらの演出ではっちにクラブが出現!)

・日時:2014年12月20日(土)

・出演DJ:KAZUHIRO ABO、DJ SOUMA、NAM&RUM

・出演VJ:Peasact、FATTY

■GrandVJ+VideoMapper を使ったプロジェクション・マッピングワークショップ

(Arkaos社のソフトを使い立体物にマッピングをしながらプロジェクション・マッピングセミナーを開催。)

・日時:2014年12月20日(土)

・実施:銀座十字屋 デリグント事業部

・参加者:25名

■かわいい八幡馬でクリスマスオーナメントを作ろう!

(小さな八幡馬を使ってクリスマスツリーの飾り「オーナメント」作りのワークショップを開催)

・日時:2014年12月20日(土)

・参加者:3名

・監修、実施:株式会社八幡馬

・体験料:1,000円

■お茶席deプロジェクションマッピング

(八戸の風景などを3Dプロジェクションマッピングで投影した和の空間でお茶席を開催)

・日時:2014年12月20日(土)、21日(日)

・映像制作:加藤直礼氏

・参加者:110名

・お茶席実施:江戸千家不白会八戸支部

・茶券代:300円

・監修、実施:(株)IMA

■映像リノベーションリケジョマッピング

(リケジョ(理系女子)目線で、八戸にちなんだ素材を使った3Dプロジェクションマッピング映像により、ヤグラ横丁の空き店舗をリノベーション。)

・日時:2014年12月20日(土)、21日(日)

・会場:ヤグラ横丁空き店舗

・監修:(株)IMA

【リケジョサマーキャンプ】

(リケジョマッピングで投影する映像作品を制作)

・日時:2014年8月4日(月)~6日(水)

・会場:八戸市内各地(取材場所)、ヤグラ横丁空き店舗

・監修:(株)IMA

・協力:(株)講談社

・制作:都内理系女子大生3名



酔っ払いに愛を 横丁オンリーユーシアター

横丁が劇場になる3日間
～お酒片手にアートな夜を～

八戸の中心街には8つの横丁があり、かつては映画館や劇場が立ち並ぶ文化の発信地であった。その横丁を舞台にダンスやトークが繰り広げられる「横丁オンリーユーシアター」は今回で6回目。横丁の空き店舗や路上を劇場にみたくて、3日間にわたって12組の出演者が登場。

空き店舗でのパフォーマンスのほかに、2014年は新たな試みとして「横丁パレード」を実施。その日の出演者全員が各横丁やお店の中を高館駒踊りの太鼓に合わせて練り歩いた。飲食中のお客さんにとっては謎のパフォーマンス集団の登場に、いつもとは違う横丁の夜を楽しんでいただけた。また、八戸の伝統芸能である高館駒踊りとの共演で、より一層お祭りのような賑わいが生まれ、各横丁の店主たちにも喜んでいただけた。

- 実施日：2014年10月2日(木)～4日(土)
- 来場者数：3日間合計来場者640名
- 当日ボランティア：50名



馬のかぶりもの「ウマジン」で横丁を練り歩き



横丁生まれ横丁育ちの十日市氏の面白トークは毎年大人気



出演者による横丁パレードでは中心街にある魚屋さんなどにお邪魔した

- アーティスト：齋藤栄治
十日市秀悦
un-pa
辻真弓・小笠原雅・黒田眸
かえるP
金子愛帆
Misawa International Traveling Show
高橋和誠
演劇系、女子。
後藤かおり+安斉研究所
嶋崎綾乃・佐貫巧
田端春花・岡安夏音子

○主催・企画・制作：酔っ払いに愛を実行委員会

○助成：一般財団法人地域活性化センター

○協賛：いわとくバルコ、(有)北のグルメ都市、蜘蛛の糸、オリエンタル酒販(株)、サニー運転代行、クラブシャングリラ、大松ビル、(株)なら弥、八戸液化ガス株式会社、八戸パークホテル、コミュニティラジオ局 BeFM、合同会社 PROA LLC、三八五観光株式会社、三八五交通株式会社、ムーンプラザ、株式会社ライケット

○協力：八戸横丁連合協議会、南郷アートプロジェクト、ポストコアビル、檜館七番街、金剛ビル、協同ビル、長横町元「みかさ」



文化芸術
活動支援
事業

**パフォーミング
アーツ振興事業**

地元演劇人と若手演出家
による八戸の「演劇化」

第3回となるはちのへ演劇祭では、十和田市出身の若手劇作家・演出家で、全国的な人気を誇る中屋敷法仁氏を迎えて新作劇「はっちのえんげきさい」を上演。

2014年12月から役者の公募をスタート。関東圏からも応募があり、総勢11名の役者は地元含めて多彩な顔ぶれ。八戸の建物や祭りを擬人化したユニークな舞台となり、10回の公演が毎回大入りという盛況ぶりとなった。

- 公演日：2014年3月1日(日)～8日(日)
- チケット代：前売一般1,200円・高校生以下700円(当日300円増)
- 主催：はちのへ演劇祭実行委員会
- 来場者数：818人
- 出演者：11名



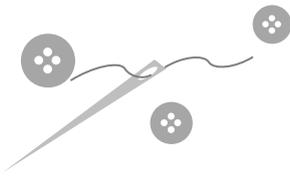
はっちのえんげきさいチラシ



作・演出の中屋敷法仁氏 八戸をテーマとした作品を作りあげた



会場は毎回大入り、上演後のアフタートーク風景



作り手の手仕事を間近でみながら 買い物ができる、工房兼ショップ

はっちの2階、3階、4階には屋台のように点在する「ものづくりスタジオ」。地域の食文化の振興を目指す「クッキング工房(食のものづくりスタジオ)」と、クラフトやデザイン作家の工房兼ショップの「ものづくりスタジオ」がある。店主は市内外からのお客様との交流やものづくり体験、販売そしてテストマーケティングの場として経験を積み、中心街への出店の足がかりの場としている。

■クッキング工房(食のものづくりスタジオ)

2階には新しく地元の野菜を使った食べるスープのお店「きたむら食堂」がオープン。

「very berry juice」は「very berry +」へ、「りんごの木」は「雅ちゃんカフェ」へ店名を変更しつつ、さらに内容を充実して引き続き入居。

■ものづくりスタジオ

4階のものづくりスタジオには新しく一人一人に合ったオリジナルアロマを提案する「かわいいアロマひつじや」と革小物の「7the4th-HANDICRAFT-」の2店舗がオープン。

新しいジャンルの店舗が入居し、若い女性が目立つようになった。

■2014年度 ものづくりスタジオ入居者一覧

ものづくり スタジオ	おもちゃハウスくれよん (おもちゃ)	入居中
	工房「澄」 (南部裂織)	入居中
	かわいいアロマひつじや (アロマ)	【入居】2014年4月
	7the4th-HANDICRAFT- (革小物)	【入居】2014年4月
クッキング 工房	Sports café RUOTE (パスタ、サンドウィッチ)	入居中
	very berry + (野菜スイーツ・ジュース)	2014年4月より店名を 変更し入居中
	雅ちゃんカフェ (健康料理)	2014年4月より店名を 変更し入居中
	きたむら食堂 (日替わりスープとお弁当)	【入居】2014年4月
	たまに庵の一ぼ (和カフェ)	【卒業】2013年5月1日 1階カフェにリニューアルオープン





ものづくり支援事業

八戸のものづくりの中核を担う
人材の育成



はっち館内には4階にクラフト系のハンドメイド作家が入居するアトリエショップ「ものづくりスタジオ」、2階・3階に食による起業を目指す作家が入居するクッキング工房(食のものづくりスタジオ)がある。開館4年目となり、作家の皆さんも入れ替わりながら、自分たちの商品力やサービスの向上を図りつつ、事務局と連携しながら多様な体験、イベントを実施している。



レザークラフトのものづくり体験の様子

■ものスタぶちフェスティバル

4階リビングでものづくりスタジオ入居者とお客様が交流できる空間を演出。ものづくりスタジオ入居作家が自主的に事業を企画。長期休暇には小中学生および保護者対象のワークショップを開催するなど、ターゲットを明確にし、招聘したゲスト作家と気軽にお茶をしながら作家と交流。ハンドメイド、オリジナル商品の良さを実感できるイベントとして定着した。

・実施日：2014年5月10日(土)以降、毎月第2土曜日11:00~16:00
※4・11・2月以外で、全9回開催



季節に合わせたアロマワークショップも人気

■^{てしごとびと} ^く ^{いち} 手仕事人の小さな暮らふと市

八戸近郊で活動するものづくり作家によるクラフト市。ものづくり文化・価値の普及と若手ものづくり作家支援を目的として開催し、22組の作家が参加した。

今回は初めて4階食のスタジオ、リビングも活用することで、既存の4階ものづくりスタジオの活性化や館内回遊も促進し、2日間で約8,500人の来館者でにぎわった。

・実施日：2015年3月21日(土)・22日(日)



イベント限定で食のものスタ合同で4階に出店



ものスタぶちフェスティバルでは、作家同士のつながりを生かしたゲスト作家出店も人気



普段の4階ものづくりスタジオの店舗の様子



県南地方、年内最後の屋内クラフト市

はっち市2014

はっちが
ちっちゃな街になる

全国でも珍しい屋内で開催するクラフト市。はっち開館以来の大きな事業として4回目を迎えた。

このイベントを通して、衣・食・住について改めて考え、便利な社会で失われつつある手づくりの大切さや面白さを体感し、本物のものづくりに触れる機会を市民の皆さまにご提供する場として開催している。

○実施日

2014年11月22日(土)12:00~20:00

11月23日(日・祝)10:00~18:00

11月24日(月・休)10:00~18:00

○協力団体

コミュニティラジオ局 BeFM、八戸観光コンベンション協会、
フォーラム八戸、子育てメイトサロンネットみらい

○主催:はっち市実行委員会

○来場者数:21,618名(3日間計)

○出展者:フード15店舗、クラフト67店舗

【Special Live “SAKAKI MANGO Electric Africa”】

○日時:11月23日(日・祝)18:00~

○出演:サカキマンゴー

○料金:前売1,500円 当日2,000円

○来場者数:100名

全国82名の作家が出展し、2014年はワークショップ(ステンドグラス、木工、皮革、布細工、アクセサリーなど)も昨年までより更に増加。地元南部地域の伝統工芸「南部菱刺」「南部裂織」の体験ブースも設けた。恒例となった4階、5階のフードコート、食の販売も賑わいを見せた。

2階シアターでは、ライブとトークイベントを今年も開催。サカキマンゴーのメインアクトは、出展作家からも大きな支持を受けた。メインステージは、zodiac nova, pop-machine & contemporary systemのYAMと、アーティストで美術教育者でもある飯田竜太、



市内名店が出店する4階、5階のフードコートにも長蛇の列



SAKAKI MANGO の親指ピアノと鹿児島弁の独特の世界が広がった

佐貫巧による「アーツ」のコラボレーションにより製作され、はっち市オリジナルの舞台となった。早川千晶 & 近藤ヒロミの投げ銭トーク&ライブ「アフリカのスラムに生きる～子どもたちの笑顔、命の輝き」は、アフリカで支援活動続ける早川千晶氏の現地からの報告に多くの来場者が耳を傾け、フェアトレード商品の購入というアクションを起こす方も多数生まれていた。トークライブでは「宇宙と経済」をテーマに、市内外の講師による肩肘のはらないトークが好評を博した。

3階ギャラリーの展示では、NPO法人アートコア青森および同法人理事長の佐々木高雄氏の協力により、「アフリカの原始貨幣」展を開催。形も素材も異なる様々な原始貨幣について、コレクターでもある佐々木高雄氏の解説に世代を超えて多数の来場者が耳を傾けた。

このほか、地元コミュニティラジオ局BeFMの協力による館内放送、地元子育て団体子育てメイトサロンネットみらいの協力による託児室の開設、ダンボールに思い思いに子どもが絵を描き表現する「ちびっこアートひろば」、11月22日を記念した「いい夫婦の日証明書発行(先着100組限定)」「オリジナルグッズプレゼント」など、はっち市恒例となった各企画も浸透し、3日間のはっち市では、来場者が一つの体験に留まらず体験の連鎖を続ける様子がみられ、はっち市が市内外からの多くの来場者、そして作家、出演者の方に受け入れられてきている様子が強くうかがえた。



来場者が壁やダンボールに思い思いに描く「ちびっこアートひろば」は今年も人気に



ギャラリー3では貴重なアフリカの原始貨幣を展示



「いい夫婦の日証明書」発行者には記念撮影も



こちらのはっち市恒例となった薪ストーブと冬の外カフェ



練習を重ねてきたちびっこサンバもお披露目



アフリカンチャリティーマーケットでの販売金は全てアフリカの支援活動費へ



BeFMさんの協力により、出展者の皆さんも放送に登場した



三社大祭&騎馬打毬パネル展

毎年の恒例企画として定着し一定の集客力もあるが、展示については、その場所へ行きたい気分になるよう工夫を重ね、毎年、足を運んでくださる方でも新たな魅力に触れられるよう実施した。

■はっちの山車展示

(展示だけでなく、はっちひろばを山車小屋に見立てた、山車の出し入れの臨場感が味わえるのも特徴)
 ・期間:2014年7月31日(木)~8月8日(金)
 ・協力:長横町粋組、八戸共進会山車組

■山車ライトアップ

(ライトアップされた山車を展示)
 ・期間:2014年8月5日(火)~8月8日(金)

■はっち特派員写真展「八戸の風が吹いている。」

~えんぶりから三社大祭まで~
 (今もふるさとに息づいている夏の三社大祭と冬の伝統祭礼「えんぶり」、2つの祭りの写真展)
 ・日時:2014年7月25日(金)~8月3日(日)
 ・協力:はっち特派員

■三社大祭&加賀美流騎馬打毬パネル展

(起源や神社行列の見所、騎馬打毬のルール解説などをわかりやすく展示)
 ・期間:2014年7月25日(金)~8月15日(金)

■創作和紙人形展~お祭りがやってきた!~

(江戸から昭和三十年までの山車・芸能を含めた、お祭り行列の和紙人形を展示)
 ・期間:2014年7月25日(金)~8月15日(金)
 ・制作:和井田良子氏

■和紙人形作りワークショップ

・期間:2014年7月30日(水)
 ・体験料:1,500円
 ・講師:和井田良子氏
 ・参加人数:10名

■小太鼓体験~たいこでん!~

(お囃子の映像を見ながら太鼓が叩ける体験を実施)
 ・期間:2014年7月31日(木)~8月4日(月)
 ※8月2日(土)は除く
 ・参加人数:250名(4日間合計)
 ・協力:青森県立八戸商業高等学校

■加賀美流騎馬打毬 観戦ツアー

(解説を聞きながら騎馬打毬を楽しめるツアーを開催)
 ・日時:2014年8月2日(土)
 ・場所:長者山新羅神社(集合:はっち)
 ・参加料:500円
 ・参加人数:30名

○協力

おがみ神社、長者山新羅神社、神明宮、
 デーリー東北新聞社、和井田良子氏、長横町粋組、
 八戸共進会山車組、青森県立八戸商業高等学校、
 市職員互助会、八戸市(社会教育課)



お手本みたいにできるかな 小太鼓体験



山車や衣装も忠実に再現 創作和紙人形展



勇壮・荘厳 加賀美流騎馬打毬観戦ツアー

えんぶり in はっち

見て楽しい・体験できる！

はっちのえんぶり



毎年の恒例企画となっているえんぶり公演や衣装着付け体験のほかに、「パネル展示」や「お休み処」の内容をさらに充実させた。また、「人形作家と話そう」のブースは、市民作家が作品の制作現場を再現し、実際に作業している風景にじかに触れることができることから、年々、人気が高まっていると同時に、ものづくりへの理解が深まっているように感じられる。

■えんぶり公演

- （ド：どうさいえんぶり、ナ：ながえんぶり）
- ・日程：2015年2月17日（火）—市庁（ド）
2月18日（水）—糠塚（ド）、妻ノ神（ド）
2月19日（木）—東十日市（ド）、山道（ド）
2月20日（金）—売市（ナ）、八太郎（ド）
- ・観覧人数：約1,050名（全日程合計）

■はっち特派員写真展

- （八戸えんぶりの魅力や楽しみ方を紹介するパネルを展示）
- ・期間：2015年2月6日（金）～23日（月）
- ・協力：はっち特派員

■「えんぶり小屋」えんぶり作品展

- （えんぶりにちなんだイラストや小物などの展示）
- ・期間：2015年2月14日（土）～22日（日）

■ミニえぼしを作ろう！！

- ・期間：2015年2月17日（火）、19日（木）、20日（金）
- ・協力：NPO法人はちのへ未来ネット
- ・体験者数：約50名（全日程合計）

■えんぶりシアター「本番を迎える日まで」

- （口上や舞などの練習風景の映像上映）
- ・期間：2015年2月17日（火）～20日（金）

■「えんぶりって？」パネル展

- （えんぶりの成り立ちや舞の種類など、はっち流の解説によるパネル展）
- ・期間：2015年2月17日（火）～20日（金）

■お休み茶房「えんこえんこ」

- ・期間：2015年2月17日（火）～20日（金）
- ・協力：食のものづくりスタジオ入居者
- ・利用人数：約200名（全日程合計）

■えんぶり人形作家と話そう

- （館内常設展示作品の作者が直接解説）
- ・期間：2015年2月17日（火）～20日（金）
- ・内容：高橋寛子氏（えんぶり和紙人形作家）
下崎雅之氏（えんぶり人形ジオラマ作家）

■えんぶり衣装着付け体験

- （太夫や松の舞の衣装を着て写真が撮れる体験ブース）
- ・期間：2015年2月17日（火）～20日（金）
- ・料金：1回100円（オリジナル手ぬぐいを進呈）
- ・体験者：144名（全日程合計）

■春を呼ぶ、創作和紙人形展

- （明治初期のえんぶりの様子を再現した和紙人形展）
- ・期間：2015年2月17日（火）～23日（月）
- ・協力：和井田良子氏

○協力

糠塚えんぶり組、妻ノ神えんぶり組、東十日市えんぶり組、山道えんぶり組、売市えんぶり組、八太郎えんぶり組、高橋寛子氏、下崎雅之氏、和井田良子氏、NPO 法人はちのへ未来ネット、はっち特派員、市庁郷土芸能保存会



えんぶり人形作家と直接話しができる展示空間



迫力あるステージ えんぶり公演



子どもも太夫に 着付け体験



観光振興
・FM事業

市民学芸員・はっち特派員

はっちの観光展示を
支える市民力

はっちの観光展示の特長のひとつは、市民の手によるものが非常に多いこと。展示作品を制作した「市民作家」の皆さんと併せて、大切な担い手となっていただいている方々が「市民学芸員」である。

種差海岸で自然観察・保護活動を続ける「わの会」の皆さんは、はっち館内種差海岸の紹介コーナーに7日～10日間に一度のペースで、いま咲いている植物や風景の写真をコメント入りで更新している。

また、館内展示映像にこれまでも携わっていただいている市内の女性映像サークル「ミセスV6」の皆さんは、「第二次世界大戦」を八戸で体験した市民の方に取材したインタビュー作品を製作。2014年8月にお披露目した。

加えて、新たな観光情報発信の担い手である「はっち特派員」として、市内で活躍するブロガー、地域メディア関係者の方に企画から協力いただき、さまざまなリアルタイムの地域情報を「はっち目線」で情報発信。はっち特派員ブログを開設し旬な八戸の情報を発信。また、「八戸三社大祭」、「八戸えんぶり」の開催に合わせ写真展を開催したほか、館内に大型タペストリーを展示した。

■「旬の種差海岸の花々」写真リポート

- ・実施団体：「植物観察わの会」
- ・場所：2階 観光展示「種差海岸コーナー」

■「わたしの戦争体験」～銃後を守った人々～

- ・製作：ミセスV6
- ・インタビュー出演者：山根勢五氏、西久保秀雄氏、石橋カネ史
- ・日時2014年8月11日(月)
- ・協力：八戸市立図書館※映像上映は2014年度に実施。

■はっち特派員写真展

(八戸三社大祭の開催にあわせ、今もふるさとに息づいている夏の三社大祭と冬の伝統祭礼「えんぶり」、2つの祭りの写真展を開催)

- ・日時：2014年7月25日(金)～8月3日(日)

(八戸えんぶりの開催にあわせ、館内各所にはっち特派員が撮影した大型タペストリーや八戸えんぶりの魅力や楽しみ方を紹介するパネルを展示)

- ・日時：2015年2月6日(金)～23日(月)



わの会による種差海岸の植物紹介



ミセスV6制作の戦争体験のインタビュー



**はっちリーショナル・プレス
はちみつ**

**このまちがもっと、このまちらしく
輝くためのソゾウ開花
「はっち」が贈る、おいしい情報**

はっち館内のことはもちろん、八戸の魅力を紹介するフリーペーパーとして、2014年度までに全20号を発行。全国の公共施設にも配布していることから、年々全国からの問い合わせが増えてきている。年4回のペースで発行。

- ・発行部数：vol.17～19 15,000部
vol.20 18,000部
- ・仕様：B4判8ページ2つ折、フルカラー
- ・配布先：中心街約130か所
その他市外約360か所に配布
- ・刊行日：2014年6月(17号)、
9月(18号)、12月(19号)
2015年3月(20号)

**放送スタジオ
「びびすた♪」
ラジオから届け！
はっちのお知らせ情報**



毎回、はっちでイベントを開催する主催者がゲスト出演し、楽しいトークを繰り広げる

「ラジオ」という顔が見えず音だけを頼りに情報をキャッチするもの。「どんな人なのだろう?」「どんな空間で放送しているのだろう?」とワクワクするのもラジオならではの楽しみの一つだが、はっちでは1階のガラス張りの放送スタジオで公開放送しているから、スタジオの前に立てば、ラジオで話している様子を直接見ながら楽しむこともできる。「送り手と聴き手が空間を共有できる」はっちのラジオ放送をぜひ覗いて見てほしい。

また、放送中は、はっちや中心街で開催するイベントを告知するコーナーがあり、イベントの実施者が自らラジオに出演し、イベントの宣伝・PRを行っている。

- ・年間出演者数：約300名
- ・周波数：76.5MHz
- ・放送日時：毎週月～金 11:30～15:00
- ・協力：コミュニティラジオ局 BeFM



貸館事業

市民のみなさんの
活動・交流の場

はっちの三大事業のひとつである貸館事業。市民のみなさんがはっちの施設を利用し、さまざまな催し物を開催している。利用者は年々増えており、毎年開催される恒例イベントも増加している。各施設の特徴や利用事例を紹介。



1F はっちひろば

3階まで吹き抜けの開放的な空間。作品展示・ステージ発表・講演会などが多目的に使用可能。



1F シアター1

音響設備やピクチャーレール・ライトなどを用意しており、講演会・作品展示などが多く開催。



1F ギャラリー1

ピクチャーレール・展示用照明がある展示スペース。はっちひろば、シアター1と組み合わせた利用も可能。



2F シアター2

音響・照明設備・大型スクリーンがある多目的ホール。ライブ・演劇が多く開催され、楽屋も完備している。



2F ギャラリー2

作品の映える白壁にピクチャーレール・展示用照明を備えた個展に最適な展示スペース。



3F ギャラリー3

作品の映える白壁にピクチャーレール・展示用照明を備えた個展に最適な展示スペース。



3F 和のスタジオ・八庵

炉を備えた32畳の和室「和のスタジオ」。掘りごたつ式にもなる「八庵」を組み合わせて利用も可能。お茶席・日本舞踊の発表会・お稽古が多く開催されている。



3F 音のスタジオ

ドラムセット・キーボード・アンプなど音響設備が備わっている防音室。楽器練習・バンド練習として利用され、シアター2の本番前練習にも利用。



4F 食のスタジオ

コンベクションオープン・炊飯器を始め、調理器具・調理台が備わった開放感あふれる調理室。調理の様子を映すカメラとモニターも設置。



5F 共同スタジオ

100㎡の多目的スペース。大人数でのワークショップなどが多く開催されている。



5F レジデンス

約42㎡の多目的スペース、少人数の会議・セミナー、踊りのお稽古、健康体操などが多く開催されている。

○貸し館の稼働率

(2014年4月～2015年3月)

スペース	稼働率
シアター1	93.40%
シアター2	78.22%
音のスタジオ	91.40%
レジデンス	87.77%
ギャラリー1	83.09%
ギャラリー2	80.51%
ギャラリー3	66.18%
はっちひろば	69.05%
食のスタジオ	43.83%
和のスタジオ	46.13%
共同スタジオ	31.80%



こどもはっち

未来の文化を
創造する
こどもたちに
開かれた場



こどもはっちは県産材の木の温もりをたっぶり感じながら遊べる、こどもとおとなの交流空間。毎週末におもちやの工作や絵本の読み聞かせタイム、バス遠足や人形劇観賞、そして折々の季節行事など、たくさんの体験の機会を提供している。パパ・ママたちの出合いの場のサークル活動や育児・子育て相談事業を実施するとともに、各地域の子育て情報を発信するなど、八戸市の子育て支援の拠点施設としての大きな役割を担っている。全てのこどもたちが夢いっぱい健やかに育つように、そしてこどもを育てる世代の全ての人たちが楽しく豊かに子育てできるように、地域のさまざまな団体、機関、個人のみなさまからご協力いただきながら事業を行っている。





来館者とまちをつなぐ ボランティアガイド

はっちは1階から4階まで観光展示やショップなどがあり、1人で見て回っても十分楽しめる施設だが、毎日2人いるガイドに案内してもらると、また違ったはっちを楽しめる。

館内案内や八戸の見所案内はもちろんのこと、良き話し相手にもなってくれるガイドは30代から80代の幅広い世代で構成されており、研修会などで勉強しながら日々はっちを支えている。

○ガイド常駐時間 9:00～17:00



はっちボランティアガイド活動日報より

- 「これまで何回かはっちに来ていたが、ガイドに案内してもらい、はっちの素晴らしさが分かった。今度は友達を連れてきて私が館内を説明してあげる。」と喜んで帰られた。
- 東京からのご夫婦を1階から案内。「いろいろな人が集まることができる施設でいいですね。よく考えて作られていますね。」とのこと。また、市民作家の技量の高さに驚いていた。
- 時々はっちに来るそうで、「ここに来ると楽しくてまるで旅行した気分になります。」とのことでした。
- 三社大祭とえんぶりの案内をしたところ、「八戸には幼いころに住んでいたが、こんなに素晴らしい祭りだったとは知らなかった。今度から皆に伝えます。」とのことでした。
- 年配女性市内から。「はっちのおかげで街に出てくるのが楽しかった。一人でもゆっくりできるし食べ物も安くておいしいので気に入っています。」とのことでした。
- 「建物の色使い・デザインなど素晴らしい。企画がいいので次の階に何があるのかなという期待感ももてる。八戸の良さが全部出ています。」とのことでした。
- はっちには時々来ていたというが、ガイドに案内されたのは初めてとのこと。「八戸のことを何も知らなすぎた。八戸も捨てたもんじゃありません。目から鱗が落ちました。ガイドしてもらって本当にありがとうございました。」と言われ非常にうれしかったです。



年齢層も幅広く、それぞれの持ち味で来館者を楽しませている



接遇研修を開催してガイドの資質の向上に努めている



はっちを飛び出して、市内施設の見学研修も開催



2014.4-2015.3
八戸ポータルミュージアム はっちの歩み

発行日 2016年3月31日
発 行 八戸市【八戸ポータルミュージアム】
〒031-0032 青森県八戸市三日町11-1
TEL 0178-22-8228
FAX 0178-22-8808
<http://hacchi.jp>
